

為替週間展望 = ドル円は過熱感が高まり、高値圏でのみみ合いで推移か

[10月4日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		9月27日～10月1日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	110.67	112.08(30)	110.54(27)	111.14	+0.41
ユーロ・ドル	1.1716	1.1732(27)	1.1563(30)	1.1580	-0.0140

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	28,771.07	-1477.74	日本10年債利回り	0.057	-0.003
ダウ平均株価	33,843.92	-954.08	米10年債利回り	1.487	+0.036

<来週の主要経済統計等>

4日 スイス9月消費者物価指数、スイス8月小売売上高
米8月製造業受注

5日 豪8月貿易収支
豪中銀 (RBA) 政策金利
独9月非製造業PMI確報値
ユーロ圏9月非製造業PMI確報値
英9月非製造業PMI確報値
ユーロ圏8月生産者物価指数
カナダ8月貿易収支
米8月貿易収支
米9月ISM非製造業景況指数

6日 NZ準備銀行 (RBNZ) 政策金利
独8月製造業受注指数
ユーロ圏8月小売売上高指数
米9月ADP雇用統計

7日 日本8月景気動向指数速報値
スイス9月雇用統計
独8月鉱工業生産指数
米新規失業保険申請件数
カナダ9月Ivey購買部協会指数

8日 日本8月勤労者世帯家計調査
日本8月経常収支
中国9月財新サービス業PMI
独8月貿易収支、独8月経常収支
カナダ9月雇用統計
米9月雇用統計

【前回のレビュー】年内どこかでテーパリングの開始についてはすでに相場にかなり織り込まれており、ドルの一段の上昇はあっても緩やかなものとなりそうだ。一方で、巨大な負債を抱える中国の不動産大手である中国恒大集団の経営危機が警戒されている。こうした中、ドル円は底堅いながらも上値を大きく伸ばしにくい展開が見込まれるとした。

【ドル円は高値圏でのみみ合いか】

21～22日に開催された米連邦公開市場委員会 (FOMC) 後はドル円は上昇基調で推移している。ドル円は9月22日の安値109.12近辺から9月29日には112.05付近まで上昇した。年初来高値である7月2日の高値111.64を上抜いた

ことで、112円台に乗せた。ただ、9月30日には米長期金利の低下もあって、ドル円は長い陰線を引いて下げに転じた。

米連邦公開市場委員会（FOMC）を受けて量的緩和の縮小（テーパリング）の年内開始と利上げ時期の前倒し観測が広がった。さらにNY原油や北海ブレント原油が上昇したことでインフレ圧力が高まるとの見方も広がり、米長期金利は上昇傾向を見せて、29日に1.56%付近まで上昇した。30日に1.48%台まで低下している。

米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長は28日の上院での議会証言で、労働力不足や製品供給が想定以上に長引いており、物価の上昇圧力になると強調した。さらにインフレが深刻な事態となった場合は、措置を講じるとしている。

また、同議長は29日の欧州中央銀行（ECB）フォーラムでサプライチェーンの問題が改善しないどころか、悪化していることに対していら立ちを覚えると発言した。こうした状況は来年も続くとしており、インフレが想定以上に長期間に渡って高止まりする可能性があるとして述べている。

米連邦準備制度理事会（FRB）として「インフレは一時的」との見解を持論としていたものの、高いインフレ率がFRBの想定以上の長期間にわたって継続していることが、米長期金利の上昇やドル高の一因となっていた。

米国株は高値圏から下げてきて伸び悩みを見せている。米経済指標がまちまちで景気回復ペースが鈍化するとの見方が広がっていることやインフレ圧力の高まりから米長期金利が上昇してきたことなどが重石となっている。

インフレへの警戒感や米長期金利上昇を背景にドル円は112円近辺まで上昇を見せた後は、修正安に転じている。ボリンジャーバンド+3σにタッチする場面が見られるなど過熱感が高まった。その後、下げに転じて+2σを割り込んでいる。バンド幅を拡大しながらの上昇が続いてきたものの、その動きが一服しており、高値圏でのみ合いで推移することとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、110.00～112.25円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、4日に米8月製造業受注、5日に米8月貿易収支、米9月ISM非製造業景況指数、6日に米9月ADP雇用統計、7日に日本8月景気動向指数速報値、米新規失業保険申請件数、8日に日本8月勤労者世帯家計調査、日本8月経常収支、米9月雇用統計、などがある。

【ユーロドルは上値の重い動きが継続か】

米長期金利が上昇傾向を見せてきたことでドル買いの動きに傾いており、ユーロドルは下落基調で推移してきた。1.16台後半で下げ詰っていたものの、9月29日にはそこを維持できずに一段安となり、1.16ドルを割り込んだ。

短期的な売られ過ぎ感から一時的に値を戻したとしても軟調な流れは継続しているとみられる。米国でのテーパリングの年内開始観測や利上げの前倒し観測などがドル買い圧力となり、ユーロドルは上値の重い展開が続くこととなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1450～1.1700ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、4日にスイス9月消費者物価指数、5日に豪8月貿易収支、豪中銀（RBA）政策金利、独9月非製造業PMI確報値、ユーロ圏9月非製造業PMI確報値、英9月非製造業PMI確報値、ユーロ圏8月生産者物価指数、カナダ8月貿易収支、6日にNZ準備銀行（RBNZ）政策金利、独8月製造業受注指数、ユーロ圏8月小売売上高、7日に独8月鉱工業生産指数、カナダ9月IVEY購買部協会指数、8日も中国9月財新サービス業PMI、独8月貿易収支、独8月経常収支、カナダ9月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。